

# 生徒ら思い思い「ほっとカフェ」



ゲームや演奏などカフェで思い思いに過ごす生徒ら＝四日市市茂福の北星高で

四日市市茂福の定時制・通信制併設校、北星高校で、校内カフェ「北星ほっとカフェ」が開かれている。教室や家庭ではない「第三の居場所」として、生徒たちが思い思いの時間を過ごせるようにと、NPO法人太陽の家(桑名市)が運営。三日には、生徒三十二人が利用し、おしゃべりやボードゲームなどを楽しんだ。(片山さゆみ)

机を囲んでカードゲームをしたり、パソコンで作曲をしたり。七夕のササ飾りを作る人がいれば、お菓子を食べながら談笑する人も。NPOのボランティアスタッフらは、生徒たちに交じっておしゃべりやゲームを楽しんだ。ギターを弾いていた二年生の都築凜さん(さ)は「家だと大きい音は出せないけど、ここ

## 北星高 第三の居場所、交友広げる場に



やっぱりおいしい  
ピミエライズ



〈のど自慢〉  
曾孫 カエル  
るよ… (歌い  
上手!  
(自分で褒め  
さかうえ・あ

だと気にせず弾けるし、話し掛けてくれる人もいる。落ち着く場所」とほぼ笑んだ。

カフェは一月から試験的に開催し、五月からは一カ月に四、五回ほど開いている。NPOの対馬あさみ理事長(五)は「保護者や先生ではない、地域の大人と交流する機会はあまりない。生徒たちがほっとひと息ついたり、悩みを打ち明けたりできる場所になれば」と話す。

また、NPOが取り組む子ども食堂や十代の居場所づくりといった活動に関わるきっかけにもなれば、と考えているという。

同校は午前部、午後部、夜間部と通信制があるが、普段は相互に交流する機会がほぼない。カフェは曜日や時間帯を変えて開催されており、生徒は誰でも自由に利用できる。赤塚和也教頭は「生徒たちの交友関係を広げる場になっている。コロナ禍でコミュニケーションの場が減っていたが、仲間づくりのきっかけとなれば」と期待を寄せた。